



作品担当者

# 宮原 良雄

一級建築士事務所 宮原良雄建築設計事務所  
(紀北支部)

戸建住宅(専用) | 尾鷲市泉町

# 尾鷲 泉の家

構造 | 木造

階数 | 地上 2 階

敷地面積 | 163.96 m<sup>2</sup>

建築面積 | 78.58 m<sup>2</sup>

延べ面積 | 129.18 m<sup>2</sup>

竣工 | 令和元年 7 月



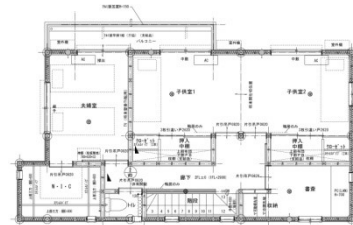
1 階 多目的室



1 階 キッチンから多目的室



1 階 玄関



## 作品コンセプト

三重県尾鷲市の市民病院沿いの国道 42 号線西側に県立尾鷲高校がある。そこから西に 500mほど離れ、昭和 50 年代開発された小高い丘陵地の集落に建つ新築木造住宅で、幅員 4m道路の角地、道路の高低差は 1.4m近くあるほゞ水平な建設地。尾鷲市は年間降雨量が 4,000 mm を優に超える日本でも有数の多雨地帯である。

この住宅の主役は、若いご夫婦と幼児兄弟 2 人の 4 人家族。

### ■外として・

大屋根はガルバリウム鋼板立平葺き、雨の非常にはけやすい工法・材料とした。軒の出 900mm、ケラバの出 450mmの出寸法をとり、外壁を防火サイディング横貼とすることで、雨のあたりや汚れを極力低減できる工法とした。特に玄関ポーチ屋根の出 1.9mとしたのは、雨天時傘をたたんでも出入りの際に雨に濡れぬよう、そして、安心して雨宿りもできるような外とのかかわりを意識して工夫を凝らした。その為の木構造として、玄関ポーチ屋根軒桁下部に長さ 1.8mの重ね梁を設け柱で受け構造的に安定させた。その深い軒が陰影を醸し出し、外から内へのプロローグとなる。

### ■内として・

1 階玄関横にトイレを設置することで、通路空間を室内として取り込み、キッチンにいるお母さんから家族みんなの顔が見えるLDと多目的室をワンルームとしてとらえた計画とした。多目的室は、天井の構造梁格子と構造用合板、そして、押入木製建具も濃茶系のオイルステン拭き取りで仕上げた。こどもが小さいうちは、家族みんなで寝室として使用、1 階だけで生活が成立する。

2 階は夫婦室、こども室ともに大容量収納、階段室横に独立した主人の書斎を設け将来に備えている。

### ■外と内、地域とのかかわりとして・

自然環境と建物形態、地域景観と建物外観をどうして地域とのかかわり(コミュニティ)、外と内を考える。夫婦とこどもの成長に応じていける住まい方や、クライアントに寄りそい、建物の内や家族の有り様が変化と成長を繰り返す「住まう」を考える。そう！家族とともに成長する住宅を願うものである。